

四中だより

夢に向かって、人生の基礎を築き、大きな翼を育む学校

新座市立第四中学校学校だより 令和6年5月1日 第2号

TEL 048-477-6053 URL www.c-niiza.ed.jp/j-daiyon



この季節が訪れると

校長 鮫島 弘樹

「世界的に有名な、あの〇〇さんがすぐそこに来ているらしい」と聞けば、つい気になり見に行ってしまうものです。

人だかりの後方からではよく見えないので、背伸びをしたり、ピョンピョン跳びはねたりしてみます。中には「この方がよく見える」と、地面に這いつくばり、人々の足のすき間から向こうをのぞく人がいるかも知れません。

「何とかこの目で見る」ために、人はあの手この手を駆使するものです。

柏餅を包（くる）んでいるのは、柏の葉です。柏の木は、手のひらよりも大きくなる葉を枝いっぱいに茂らせています。

反対に、体育館の脇に並んでいるドウダンツツジのように、とても小さな葉をびっしりと付けている木もあります。

端午の節句（5月5日）に、湯船に浮かべる習わしのある菖蒲（しょうぶ）の葉は、天に向かって細長く伸びています。

周囲の草や木にじゃまされず「太陽の光をしっかりと浴びる」ために、植物たちも葉の大きさや付け方などに、あの手この手で独自の工夫を凝らしています。

ケヤキ、サクラ、メタセコイア、シュロなど、本校の敷地内には様々な種類の木が植えられています。緑地としての効用と、学習環境としての役割の両面から、多様な種類が選定されたようです。

しかし、校地内に生えているのは、これら人為的に植えられた植物だけではありません。土さえあれば「いい場所を見

つけた」とばかりに、どこからともなく運ばれてきた種子が、いつの間にか芽を出し、葉を茂らせていきます。

ドラマのモデルにもなった牧野富太郎博士の言葉「雑草という名の草はない」は、植物学的にはもっともな名言です。

しかし、来るべき季節を思うと、「雑草という名の…」などと悠長に構えていられないというのが本校の実情です。

この先、雨が降るごとにグラウンドを始め、校内の至る所に「雑草」が繁茂しはじめます。毎年、職員が時間を見つけては草を刈り、学校応援団の皆さんにも連日、刈払機を使っての作業を続けていただいています。それでも、必死の生き残り競争を続ける植物たちの勢いには、なかなか追いつけません。

新緑の季節が訪れると、さわやかな気持ちに満たされる一方で、「また、あの季節か」と、少し憂鬱（ゆううつ）な気分にもなってしまいます。

せっかくのよい季節に、ため息をついている場合ではありません。

そこで、誠に厚かましく一方的なお願いではございますが、6月の下旬に地域の皆様や保護者の力をお借りして、臨時の除草作業を実施したいと考えました。

日時は、6月29日（土）朝7時30分からの「1時間」を予定しています。

名付けて第四中「草バスターズ」計画の詳細につきましては、学校だより6月号や、HP等でお知らせする予定です。